

推陳出新*

—深圳スタートアップ対談

創新階梯 2

Mobike創業者、深圳での新たなる挑戦

深圳市合言信息科技
CEO

張 岩 氏

インヴィニオCHINA華南統括
Producer・Business Creator

小森 可視

世界に挑戦する人々を応援

小森 これまでの経験についてお聞かせください。

張 2006年卒業以来ずっとインターネット業界に関わり、Baidu(百度)では広告サービスを担当しました。



張 岩(Zhang Yan)氏

深圳市合言信息科技CEO
摩拜单车(Mobike)共同創設者。百度(Baidu)、滴滴(DIDI)、思必驰(AI speech)を経て、2018年にLangogoを創設。

深圳市合言信息科技(Langogo Technology)
2018年1月創立。人工知能音声分野における技術とイバージョンで、世界に全く新しいコミュニケーション体験を届けることを目指し、自社開発のAI翻訳機ブランド「Langogo」を開拓する。20件以上の国内・国際特許、10件以上の版権、ソフトウェア著作権を取得。現地は国内と海外市場でレンタル業務を展開し、海外旅行、海外ショッピング、ビジネス商談などのシーンのため、即時通訳サービスを提供している。

た。14年には創業当時のDiDi(滴滴打车)に入り、15年にパートナーと共に北京でMobike(摩拜单车)を創設しました。

小森 あのMobikeですか?

張 そうです。最初はスマートバイクを売るつもりで融資を募りましたが、投資家に、バイクを作つて1年に一体何台売れるのか、だったらDiDiのようにシェアすることを検討すべきだと言われたのです。実はMobikeはDiDiの発想から来ています。その後、Mobikeを辞め、北京から深センに移ってAI Speechという会社でスマートカー分野の責任者となり、18年にLangogoを創設しました。

小森 Langogo社について教えて下さい。

張 Langogo社はAI音声技術を通して、世界に挑戦する人々を応援することを目指しています。現在は、手のひらサイズの翻訳機を提供していますが、今後はコアとなるAI音声認識技術を通して、事業領域を拡大する予定です。

我々の特長のひとつは、20以上の音声エンジンを採用し、対象言語を単語と単語で翻訳するのではなく、より自然に、正確に100以

※推陳出新:「陳(ふる)きを推して新しきを出す」。古いものの良い部分を残しつつ、新しいものを創出していく、という意味の四字熟語。

上の言語の相互翻訳ができるところです。もうひとつは、世界各地にサーバーがあるため、安定したネット環境によるサポートが可能なことです。インターネット経由で、現地で必要な情報も同時に提供してくれます。

音声認識の技術を使って、異なる言語・文化の人々の間でのコミュニケーションにおけるストレスを解消したり、日常生活・ビジネスにおける効率化など、人を助けるためにこの技術を活用していきたいと考えています。

再度の起業、動機は

小森 起業から学んだことは何でしょう。

張 1度目の起業は特に大事です。立ち上げ時は「人」がとても重要で、



Langogo社開発チーム

自分だけで全てが出来るわけがなく、あらゆる方面で助けてくれる信頼できる存在が必要です。わたしにとって信頼関係というのは最も大事なものひとつです。

小森 もう一度自分で会社をやりたい、と思った動機は?

張 タイミングですかね。環境、周囲の関係性等々、起業に必要ないくつかの要素が揃い、時が来たと思いました。理論的に色々なことを考えて準備していましたが、もちろん、全てが完璧に揃うということはありません。

強いて言えば、スターバックスのハワード・シュルツ氏の影響でしょうか。彼は創業当時30代で、ニューヨークからシアトルに渡り、スターバックスを作りました。夫人は妊娠しており、父親は60歳でがんを患っておられました。

私がシュルツ氏の自伝を読んだ時、ちょうど30過ぎ、北京から深圳に渡った頃で、妻も妊娠しており、父は60歳でその年に肺がんを患ったのです。あまりにも状況が似ていて、当時の彼の苦難を思えば、自分にも出来ないわけではないと。ちょうど投資家も現れ、今がその時だと決断しました。

深圳と日本、製造業の強み



モバイルシェアバッテリーのようなシェア翻訳機サービスも開始

小森 なぜ深圳でこの業界にトライしようと思ったのですか。

張 私はAI音声認識に関する仕事をしており、この方面に経験と知識がありました。また、ソフトウェア開発だけならばどこでも良かったのかも知りませんが、深圳はスピード感のみならず、世界的に見ても非常に高度に整った製造業の産業ネットワークがあるため、ハードウェアを速く形にするのに適しています。

コーヒーを淹れる位の感覚で、ある程度信頼できるパートナーへの電話一本で、浮かんだアイデアを一日で現物にすることができます。そして、実際に目で確かめて、その場で改善を加えていくことができるのです。

小森 日本の企業、技術についてはどのように捉えておられますか?

張 精密技術などの分野においては、やはり日本には敵わないと思います。Huaweiのスマホもコア技術は日本のものです。ただし、中国のすごいところは実用化です。良い技術を世の中に投入して、使ってみることが出来ます。また、中国ではソフトウェアというものが重要な視されています。

AIは今大変ホットな技術ですが、国際的に見ても大部分は中国で取り組まれています。私はかつて第二次大戦後の日本について本を読んだことがあります。戦後混乱の中で皆が立ち上がってビジネスを始め、今では大企業となっている色々な会社が地位を獲得してきました。遅れて発展始めた中国は今、混乱の段階で、その中から百度やテンセント、Huaweiなどが生まれました。急成長の真っ只中のです。



小森 可視(こもりよしみ)

インヴィニオCHINA華南統括・
Producer・Business Creator

京都大学工学部電気電子工学科卒業後、Panasonic入社。入社後一貫してデバイスのBtoB営業を担当。日系大手総合電機メーカーの顧客窓口・事業部における海外顧客向けセールスエンジニア等の経験を経て、2014年より深圳駐在。Huawei顧客窓口として、中国人幹部との折衝等を担当。18年インヴィニオCHINA入社。19年深圳オフィスを開設

小森 最後に、深圳で挑戦したい方に向けてメッセージをお願いします。

張 軽い気持ちで起業せず、よく準備することが大切です。アイデアを思いついたから起業、というタビオカミルクティー屋を始めるような“做生意”ではなく、今までとは違った価値を生み出していく“创业”こそが起業です。じっくりと考えを巡らせ、自分の能力や得意なこと、環境など、真剣に考え抜いた上でチャレンジしてほしいと思います。

INVENIO CHINA

Discover the Potential for Leadership
英必諾企業管理諮詢(上海)
(インヴィニオチャイナ)

1997年にマッキンゼーのOBによって設立。整備的視点から、人材育成・企業文化の変革や理念の浸透に取り組んでいます。研修やワークショップ、オフサイトミーティングの場を使い、組織・人材の潜在力をEduce-引き出して顕在化させる独自の手法に強みを持つ。

■上海市徐匯區天平路320弄25號(上海)
深圳市南山区海德三道168號 航天科技
廣場B座7樓A20室04(ATLAS畫廊)(深圳)

☎021-6437-0001
✉http://www.invenio.cn/
✉infochina@invenio.jp